

眼形成・眼窩・涙道外科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	外眼筋嵌頓閉鎖型眼窩骨折の成人例
研究機関名及び 研究機関の長 (試料・情報の管理 責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	眼形成・眼窩・涙道外科 (職名) 教授 (特任) (氏名) 高橋靖弘
試料・情報の利用目的 及び利用方法	<p>〔利用目的〕</p> <p>閉鎖型眼窩骨折は、目が収まっている骨の窪みである眼窩の壁が骨折した際にその弾性によって折れた骨が元の位置に戻り、眼窩の中の組織を骨折部に挟み込んでしまう骨折です。脂肪と目を動かす筋肉(外眼筋)が骨折部に嵌頓することがあります。閉鎖型眼窩骨折は骨の弾性が大きい小児に起こることが多いですが、成人でもまれに起こります。成人例では脂肪のみが挟まることが多いとされ、成人の外眼筋が挟まることは極めてまれとされています。本研究は、当科で経験した外眼筋嵌頓閉鎖型眼窩骨折の成人例についてその特徴を調べることを目的としています。</p> <p>〔対象となる患者さん〕</p> <p>2016年1月から2023年5月までに当科を受診した外眼筋嵌頓閉鎖型眼窩骨折の成人患者さん</p> <p>〔研究期間〕</p> <p>研究実施承認日 ～ 2024年3月31日</p> <p>〔利用方法〕</p> <p>診療情報の収集目的で、カルテを利用します。研究の方法に関する資料を入手・閲覧を希望する場合は、下記問い合わせ先まで申し出てください。</p>
利用又は提供する試料・情報の項目	情報：年齢、性別、左右、受傷機転、受傷から当科受診までの期間、骨折位置(眼窩下壁、内壁)、嵌頓外眼筋(下直筋、内直筋)、併発する眼外傷(前房出血、硝子体出血、網膜剥離等)、術前後眼球運動、受傷から手術までの期間、経過観察期間
試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名	非該当
提供する試料・情報	非該当

の取得の方法	
提供する試料・情報を用いる研究に係る研究機関名・研究責任者名	非該当
利用する者の範囲	非該当
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2023年12月31日までに電話により下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科 担当者：(職名) 教授 (特任) (氏名) 高橋靖弘 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 12314)